

2021年度事業計画

組込みシステム産業振興機構

1. 第1部会(教育事業) 事業計画

第1部会のめざす方向

人材育成の場づくり

産業界のニーズにあった「質」の高い人材育成基盤整備
〈必要なプラットフォームの役割〉
各技術者のスコープに応じた人材育成・支援の役割。

【STEP5の活動方針】

- nExT IoTを支える十字型人材の輩出
- 体系的教育を維持しつつ、最新シーズの強化とビジネス視点の醸成
- ブランド力の向上と、規模から質への転換によるサステナブルな運営

高度人材の輩出

第1部会のめざす方向

目指す高度人材とは・・・

【組込み製品を活用したビジネスを創造できる次世代人材の育成】

- ・システム全体を見通し、何のために(Why)、何を(What)、どのように(How)、作り込むのか(Do)、を見極めつつ、プロジェクトをリードできる人材。
- ・デジタライゼーションを担い、「つないで」、「見つけて」、「生み出し」、「広げる」人材

ニーズ変化の背景(組込み業界の環境動向)

● 組込み開発とIoT分野の融合

Society5.0の実現に向けて、組込みシステムがネットワーク化し、IoTとの融合が急速に進んでいる。そのため、全体を俯瞰した全体設計力の強化、システムとシステムをつなぐ力、技術を組み合わせる力、更にはサービス・ビジネスまでを見通したシステム設計・構築スキルが求められる。

● ビジネス動向・必要技術の変化

【STEP5重点分野】モビリティ、ロボティクス、ヘルスケア、環境・エネルギー
【支える技術】組込み技術、サイバーセキュリティ、IoT、クラウド、ビッグデータ、AI

● 組込み適塾の成熟と社会的責任

実施講座数・日数・遠隔拠点数など規模の拡大は行きつくところまで行き、経営面でも安定期に入っている。一方で、組込み適塾への期待や社会的責任は益々大きくなり、運営面での質の向上や安定性が今後求められる。

反映

2021年度 事業計画

1. 「組込み適塾」のブランド価値向上と活用促進

- (1) STEP5事業方針「十字型人材の輩出」を目指したカリキュラムの改善・拡充(①)
- (2) iCDに基づく講座レベルの明確化成果の活用と適塾コースマップ改善(③)
- (3) お墨付き取得の再検討(対象再調査と応募検討)(③)
- (4) 次年度以降のアフターコロナを想定した組込み適塾開催形態の検討(②)

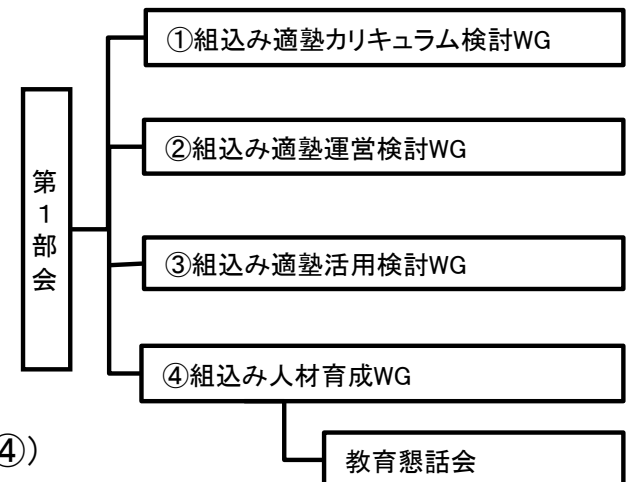
2. 自由で活発な交流の”場”の提供

- (1) 関係者/講師/受講生間の人的ネットワーク形成の支援(②)

3. 日本の組込みシステム産業発展への貢献

- (1) 「十字型人材の育成」に向けた新たな組込み人材育成施策の検討と教育懇話会の開催(④)
- (2) 組込み適塾への「優良修了認定制」の導入と評価(④)

推進体制



第2部会のめざす方向

ビジネス機会創出の場づくり

競争力強化の場づくり

【STEP5活動指針】

- 事業・施策の継続と更なる質の向上
- モノ(製品)・コト(サービス)の開発力強化
- 会員企業間の協創促進

新商品・新事業創出力強化を支援
(組込み開発企業展示会)

オンライン実施強化(※)

製品開発力強化を支援
(プライベートセミナー)

第2部会のめざす方向

(※) withコロナでの施策推進のため追加

反映

ニーズ変化の背景(組込み業界の環境動向)

- 市場拡大への期待
Society5.0による超スマート社会の実現に向けて、STEP5の重点4分野でもある、次世代モビリティ、次世代ヘルスケア、エネルギー転換、ロボット導入への強力推進が求められている。
- オープンイノベーションの必要性
多様化する市場ニーズから、商品開発の大規模化、複合化が進み、技術進歩が早いため、オープンイノベーションが加速している。組込み開発においても、自社の強みである技術・ソリューションをコアに、他社の優秀な技術・商品を取り込んだ、ニーズ・シーズマッチングによる商品提案が必須となっている。
- 新ビジネスへの開発力の強化
AIやIoTを活用して次々と創出されている新ビジネスに対して、イノベティブな組込み商品・技術を創出する必要がある。
- コロナとの共存
IoTを活用したオンライン型開催での効果向上が必要である。

2021年度 事業計画

1. 戦略的展示会開催によるビジネス機会創出支援

- (1) 戦略的に展示会を開催し、ビジネス創出の場を提供(①)
- (2) 展示先企業のニーズ情報の取得、展示先企業との人脈形成など、出展成果向上のための施策実施(①)
- (3) 展示先企業の要望に応じて、オンサイト型/オンライン型など多様な開催方式での実施(①)
- (4) 来場者・出展社の評価を定量化し、施策改善に活用(①)

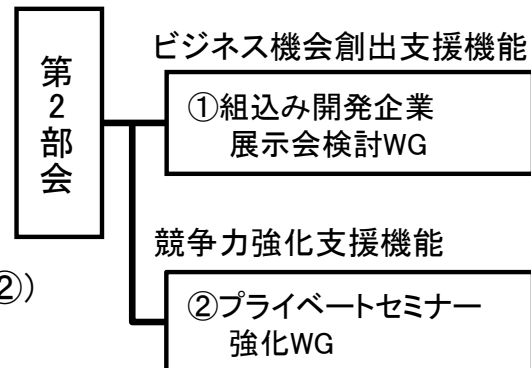
2. プライベートセミナーによる競争力強化支援

- (1) 会員にとって競争力強化につながる講演を提供(②)
- (2) 組込み開発企業展示会の展示先企業向けセミナーとの連携(②)
- (3) ハイブリッド開催を前提として、講師と会場・オンライン参加者の活発な意見交換の場を提供(②)
- (4) 先端施設見学会を開催(②)

3. WINKと連携し、参加チームの要望に応じた支援の場を提供

- (1) WINK参加チームからの要望があれば、展示会、プライベートセミナーなど部会活動を活用した場を提供(①②)

推進体制



3. 企画広報部会(企画・広報事業) 事業計画

企画・広報のめざす方向

他地域連携の場づくり

情報発信交流の場づくり

ビジネス機会創出

会員協働の場づくり

【STEP5の活動方針】

従来の他地域連携、情報発信・交流、ビジネス機会創出、会員協働の活動を継続・活性化し、それらの活動を下支える広報活動を強化することにより、機構のプレゼンス向上とオープンイノベーションの場の充実を狙う。

機構プレゼンス向上

オープンイノベーションの場の充実

企画広報のめざす方向

反映

ニーズ変化の背景(組込み業界の環境動向)

- 組込み開発分野のオープンイノベーションの加速促進
スピードが求められる今日の競争環境において、必要な技術を自社の研究開発力だけに頼る「クローズド・イノベーション」では、市場の変化に素早く対応することが困難になっている。自社技術だけでなく他社が持つ技術やアイデアを組み合わせ、革新的な商品やビジネスモデルを生み出す「オープン・イノベーション」への転換が進んでいる。
- ビジネス動向・必要技術の変化
超スマート社会(Society5.0)の実現を目指し、AI,IoT,クラウド、ビッグデータ、サイバーセキュリティ等、様々な技術が多様な分野への応用が進んでいる。組込みシステムにおいても、モビリティ、ロボティクス、ヘルスケア、環境・エネルギーといった分野において、これらの新たな技術が求められるようになってきている。

2021年度 事業計画

1. “WINK”コンテストを通じたオープンイノベーションの場の更なる充実

- (1) 広報活動強化による参加チームの多様性、応募数の確保(SNS・他団体ネットワークの活用、参加者メリット訴求、第1部会との連携)
- (2) ビジネス化に向けたアフターフォローの強化(外部機関・会員企業ネットワーク・機構イベント・支援制度他の活用、第2部会との連携)

2. 公的研究機関、独立行政法人、大学、経済団体等との連携による戦略的情報発信

- (1) 外部団体との連携による各種セミナーを通じた最先端技術の情報発信

3. 地域間連携及び団体間連携による更なる活動基盤の拡充

- (1) 第10回全国組込み産業フォーラムによる中国地域との連携と団体間交流

4. 部会施策の広報支援やプロモーションによる機構のプレゼンス向上

- (1) 機構主要施策のプロモーション継続と各種メディアを通じた情報発信
- (2) 関連団体イベントへの共催・出展・後援などを通じた情報発信
- (3) 広報機会の増加による研究会の活性化